

運転保守状況(備考欄)

1号機

1月8日(火)

取出した使用済みの制御棒12本の内3本(ボロン・カーバイド型制御棒1本およびハフニウム棒型制御棒2本)について外観点検を行ったところ、ハフニウム棒型制御棒1本のハンドルガイドローラ取付部近傍に微小なひびがあることを確認。他の2本の制御棒に異常はなかった。当該部のひびは、これまで他プラントでも確認されており、制御棒の健全性に影響を与えるものではないが、念のため解析評価により確認。

【中国電力(株)公表済み】

1月14日(月)

1月13日(日)午前9時頃から復水貯蔵タンクに水張りを開始していたところ、1月14日(月)午前5時頃、原子炉建物1階管理区域内のB、C復水輸送ポンプ周辺の床面に水溜りを発見した。

水溜りは、B、C復水輸送ポンプ入口圧力計取付部からの漏えい水であり、直ちに当該入口圧力計の元弁を閉止し、漏えいは停止した。

当該圧力計取付部を確認した結果、計器取付部の銅パッキン(計器接合部などからの液体の漏れを防ぐもの)が割れたことにより漏えいしたものと判明したため、当該パッキンを新品に取替え。

なお、漏えい量は約7リットル、漏えい水の総放射能量は、 2.4×10^3 ベクレルであり法律に基づく報告基準値： 3.7×10^6 ベクレルに比べ十分に低い値だった。

【中国電力(株)公表済み】

1月17日(木)

タービン建物排気筒から排気される気体の放射性物質の濃度測定を1週間ごとに行っているが、1月10日(木)～1月17日(木)間の測定を行ったところ、微量の放射性物質(コバルト60¹)が検出された。

測定値は1立方センチメートルあたり 7.5×10^{-9} ベクレル²であり、測定器の検出限界値(1立方センチメートルあたり 2.5×10^{-9} ベクレル)をやや上回る値だった。また、この間の放出量は 2.2×10^5 ベクレルであり、国への報告基準である 5×10^{11} ベクレルの約200万分の1だった。

なお、発電所周辺のモニタリングポストの指示値に異常はなかった。

調査の結果、1月15日から18日の間、廃棄物処理建物空調換気系が点検停止中であり、廃棄物処理建物内のタンク室に滞留した放射性物質を含んだチリが配管等の壁貫通部からタービン建物側へ流入したことが原因と推定。

このため、貫通部の密閉化等の放出低減対策を検討する。

なお、1月17日(木)～1月24日(木)間の測定を行ったところ微量の放射性物質(コバルト60)が検出された。

測定値は1立方センチメートルあたり 2.7×10^{-9} ベクレルであり、測定器の検出限界値をやや上回る値だった。放出量は 0.8×10^5 ベクレルだった。

1月10日から24日の間の合計放出量は 3.0×10^5 ベクレルで、国への報告基準である 5×10^{11} ベクレルの約160万分の1だった。

- 1 コバルト60 コバルトの人工放射性核種の1つ。ガンマー線源として使用され、厚さや密度を測る工業用測定器、食品の殺菌、ガンの放射線治療などに幅広く利用されている。半減期は約5年。
- 2 ベクレル 放射能を表す単位。1秒間に原子核が崩壊する数を表す単位。

【中国電力(株)公表済み】